

熊本地震

被災地支援を通じて

未来を生きるために



■ 行政が機能しない

私 たちが派遣されるといふことは、「行政機能がマヒしている」ということ。それを実感した派遣業務でした。被災地では、罹災証明書の発行業務に従事しました。テレビ報道などにより、情報が錯綜し、罹災証明書を取得しなければならぬと、パニックになっている様子も見受けられました。住民一人一人が正しい情報を取得し、判断できるようにしていく必要があると感じました。

また、全国から支援物資が届いているものの、行政の手が足りずに被災者に行き渡っていない現状もありました。地域の自主防災会などの連携により、物資が行き渡るようにする必要がありますと思いました。



県災害派遣職員第4陣
防災課
山下 悠太 主任

■ 自助が命を救う

静 岡県でもいつこのようか分かりません。もう何十年も大地震が来ると言われ続けていますが、正直自分も含め、地震についての緊張感は無くなっていったと感じます。

私が支援に入ったのは、地震発生から約1カ月がたった時でした。被災地では、多くの行政支援やボランティアの手が差し伸べられていました。1カ月がたち、必要なライフラインなども復旧している中では、何でもしてあげる支援よりも、被災者が自立できるような支援が大切だと感じました。

改めて公助には限界があり、自分の身は自分で守る「自助」、地域で支えあう「共助」が大切だと実感しました。



県災害派遣職員第6陣
福祉課
長島 久人 主任